平成 26 年 1 月 20 日

女子大学生におけるストレスコーピングとプロアクティブコーピングの関係

The relationship between stress coping and proactive coping of female students in university.

臨床心理学研究科　臨床心理学専攻

1000-120701　岩瀬萌

指導教員　教授　牧野由美子

本研究の目的は，将来の潜在的なストレッサーに対して予防的な側面を測定する女性用プロアクティブコーピング尺度を作成し，従来のストレスコーピング及び時間的展望との関連を検討することである。

方法は第 1 研究において，女子大学生 99 名（平均年齢＝20.50，SD=0.82）を対象にした予備調査で 87 項目が選定され，女子大学生 367 名（平均年齢＝20.0，SD=1.56）を対象に予備調査で集められた 87 項目の調査を実施した。因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行った結果から，2 因子が確認された。第 1 因子は「積極的対処」，第 2 因子は，「回避的対処」と名付けた。先の調査対象者とは別の女子大学生 57 名のうち有効回答 54 名（平均年齢＝18.5，SD＝0.50）を対象に，各因子の Cronbach の α 係数を算出した結果，第 I 因子は.898，第 II 因子は.789 であったため，この尺度の十分な信頼性が確認され，「女性用プロアクティブコーピング」尺度とプロアクティブコーピング尺度（宇佐美，2012）の間で，中程度の相関が見られたため妥当性も確認された。また第 2 研究において，女子大学生 148 名（平均年齢＝19.36，SD=1.02）を対象に，女性用プロアクティブコーピング尺度，時間的展望尺度（白井 1994；1997），三次元モデルにもとづく対処方略尺度（TAC-24；神村・海老原・佐藤・戸ヶ崎・坂野,1995）の各質問紙を実施した。TAC-24 と時間的展望体験を独立変数とし，女性用プロアクティブコーピングの各下位尺度を従属変数とした重回帰分析の結果，女性用プロアクティブコーピングの「積極的対処」に正の影響を与えているものは「問題解決・サポート希求」（β＝.473，p<.01），「回避的対処」に正の影響を与えているものは「問題回避」（β＝.499，p<.01）であることが示された。次に時間的展望体験を高群と低群に分け女性用プロアクティブコーピングの差について検討を行った結果，高群は低群より女性用プロアクティブコーピングにおける「積極的対処」（$t(41)=2.103, p<.05$）が有意に高く，「回避的対処」（$t(41)=3.152, p<.01$）が有意に低かった。

「全体」（$t(41)=1.171, p=n.s.$）においては有意な差はみられなかった。

女子大学生においては，将来の潜在的ストレッサーへの対処であるプロアクティブコーピングは，従来のストレスコーピングと関連があることが示され，時間的展望の高さによりプロアクティブコーピングに違いがみられることが明らかとなった。これらのことから，将来のストレスを予防するプロアクティブコーピングにおいて従来のストレスコーピングの確立と時間的展望の獲得の重要性が示めされた。